

○吉本議長 通告1番目、13番、奥田富代子議員、一問一答方式で質問願います。

奥田富代子議員。

○奥田議員 おはようございます。

13番、奥田富代子でございます。ただいま議長の許可を得ましたので、一問一答方式で、特別支援教育の充実について、学校給食の残渣について、2点で質問させていただきます。

1点目、特別支援教育の充実について、今会議で、岩出市教育支援委員会条例の一部改正が議案として提出されていまして、同条例の改正理由として、児童福祉機関の増設に伴い、委員数がふえるという説明をされていまして。児童福祉機関が増設されるということは、支援を必要としている子供がふえてきているということだと思われまして。そうであるとすれば、一人一人の健やかな成長を保障するという観点から、ますます特別支援教育を充実させる必要が高まってきているということだと考えられます。

そこで、まず市では特別支援学級に在席している児童生徒は、増加してきているのかということ、過年度の状況も含めて、その推移をお聞かせください。

また、それらの児童生徒に対する市の施策には、どのようなものがあるのか、お伺いいたします。

次に、文部科学省の調査では、公立小中学校の通常学級に在席する児童生徒のうち発達障害の可能性がある子供が約6%に上ることが発表されています。本市の児童生徒数は4,700名なので、単純に計算しても280名が該当し、1学級当たりでは2名前後いると考えられます。

特別支援学級に入っていないこれらの児童生徒への対応も非常に重要であると考えますが、どのような対応をしているのか、お聞かせください。

○吉本議長 ただいまの1番目の質問に対する市当局の答弁を求めます。

教育部長。

○秦野教育部長 おはようございます。

奥田議員のご質問の1番目、特別支援教育についてお答えをいたします。

まず初めに、特別支援学級に在席している児童生徒数ということですが、いずれも5月1日現在で、平成27年度、100名、平成28年度、122名、平成29年度、127名となっております。平成30年度は151名に上る見込みでございます。年々、特別支援学級に在席する児童生徒は増加傾向にあると言えます。

特別支援学級に在席する児童生徒に対する市の施策としましては、市費によりま

す介助員を合計21名採用し、一人一人の障害特性に応じたきめ細かな対応ができるようにしております。

また、児童生徒の障害の程度や困り感はそれぞれに異なり、それに伴う支援の仕方も当然異なるため、学校では保護者や医療機関などの意見を参考にしながら、個別の教育支援計画、個別の指導計画などを作成し、きめ細かな指導と支援に努めてまいります。

続きまして、2点目、発達障害のある子供への対応についてでございますが、特別支援学級に在席はしていない発達障害のある児童生徒への対応については、本市では中央小学校と根来小学校に通級指導教育を開設し、通級してくる児童の混乱さを克服する支援やソーシャルスキルトレーニングなどを実施してまいります。

通級指導教室とは、発達障害のある児童が通常の学級で学習しながら、週に何時間かその教室へ通い、当該児童の困難さや不得意分野などの克服並びに対人関係がスムーズにできるようになるトレーニングを受けたりする教室です。

この教室は、中央小学校や根来小学校以外の学校からも通うことができ、特別支援教育に関し、専門的な知識を持った教員に担当してもらっております。

しかし、通級している児童も大半は通常の学級で学習しているため、発達障害のある児童生徒への対応の仕方を初めとする教員研修も実施しているところでございます。

以上です。

○吉本議長 再質問を許します。

奥田富代子議員。

○奥田議員 発達障害のある児童生徒のため、通級指導教室を中央小学校と根来小学校に設置しているということですが、その子その子に適した指導をしてもらえるので、大変よいことだと思います。しかし、設置校以外の児童は、中央小学校や根来小学校まで行かなくてはならないので、なかなか通級指導教室の恩恵を受けにくいと思います。

さらに、こうして小学校で手厚い支援を受けてきた児童が、中学校へ進学したとき、同様の支援を受けられない状況にあると思います。発達障害のある子供が中学校に入学後、うまく適応できず、不登校になったという事例も聞いたことがあります。そこで、ぜひ小学校での設置校をふやすとともに、中学校にも設置していただきたいと考えますが、市教委の方針をお聞かせください。

○吉本議長 ただいまの再質問に対する市当局の答弁を求めます。

教育部長。

○秦野教育部長 奥田議員の再質問にお答えをいたします。

通級指導教室の増設に考えはどうかということかと思えます。根来小学校も中央小学校も岩出第二中学校区に当たります。岩出中学校区の小学校にも設置したいと考えておりましたが、県教育委員会から、このたび加配教員をいただけることとなり、平成30年度から岩出中学校区の小学校にも新たに設置すべく、現在、準備を進めているところでございます。

なお、中学校への設置をとということではありますが、その必要性は十分認識しており、担当者を育成するため、中学校の教員を1年間、和歌山大学へ国内留学させた後、開設してまいりたいと考えてございます。

以上です。

○吉本議長 再々質問を許します。

(なし)

○吉本議長 これで、奥田富代子議員の1番目の質問を終わります。

引き続きまして、2番目の質問を願います。

奥田富代子議員。

○奥田議員 2番目、学校給食の残渣についてお伺いいたします。

食べられる状態なのに、捨てられる食品ロスは、家庭やスーパー、ホテルやレストランなど、あらゆるところで見受けられます。農林水産省によると、日本では、年間2,797万トンの食品廃棄物が発生しており、このうち632万トンが食品ロスと推定されています。

食品ロス対策として、3010運動、乾杯後の30分間は席を立たず、料理を楽しむ、お開きの前10分間は自分の席で食事を楽しむは、広く知られてきています。これからの時期は歓送迎会があちこちで催されますが、ぜひとも、この3010運動を実行していただきたいと思えます。

国連は、2030年までに世界全体の1人当たりの食品廃棄物を半減させる目標を採択しています。岩出市においても、まずは小中学校における学校給食や食育、環境教育など、それを通して食品ロス削減のための啓発を進めるべきであると思えます。

そこで、2点お聞かせください。

1点目、食品残渣の状況と処理状況について、2点目、食べ残しを減らす対策について、以上2点お伺いいたします。

○吉本議長 ただいまの2番目の質問に対する市当局の答弁を求めます。

教育部長。

- 秦野教育部長 続きまして、ご質問の2番目、学校給食の残渣についての1点目、小中学校における給食残渣の状況と処理状況についてお答えをいたします。

学校給食残渣につきましては、現在、御飯は米飯加工業者にそのまま回収していただいておりますので、給食センターで回収しているのは副食のみでございます。

本市では、事業系ごみの削減や食品リサイクルの観点から、給食残渣などについては養豚業者に引き取っていただいております。残渣の引取量につきましては、過去3年間で申し上げますと、平成27年度、4万5,300リットル、平成28年度、4万5,000リットル、平成29年度2月末現在で4万350リットルとなっております。

次に2点目、食べ残しを減らす対策につきましては、まずは子供たちが今日の給食もおいしかったと思えるような味つけや献立を工夫しているところです。各学校においては、本日の献立について、例えば、食材や栄養、調理の工夫について、給食センターからの資料を給食の時間に校内放送で読み上げたり、各学校の給食委員会が月目標を設定し、啓発を行うなど、完食に向けて取り組んでいるところでございます。

- 吉本議長 再質問を許します。

奥田富代子議員。

- 奥田議員 残渣については、養豚業者に引き取ってもらったり、それから、食べ残しを減らす対策としては、味つけに工夫をしたり、給食委員会の方がいろいろ発表されたりとかということで取り組まれているということですが、ここで平成28年度、学校給食の実施に伴い発生する廃棄物の3R促進モデル事業の2例についてお知らせしたいと思います。

まず1例目、千葉県の木更津市では、平成28年度、小学校、中学校に外部講師を招いての特別授業を実施し、平成29年1月に農場体験授業を実施したところ、食育効果として46%、食べ残し量が減りました。また、児童生徒の行動、意識の調査を行ったところ、嫌いな食べ物が入っていたからという理由で給食を残す児童は、小学校ではゼロになったという効果が報告されています。

2例目、京都府宇治市では、A小学校の高学年に市職員が環境教育を行い、環境教育を受けた児童が全校集会で発表を行ったところ、5年生では72.2%、食べ残し量が減りました。また、家庭の波及効果を調査したところ、約50%の家庭で子供が環境教育の内容を話したと報告されています。

このような取り組みを参考にされ、小中学校における食品ロス削減のための啓発

を進めてはと思いますが、市教委の今後の取り組みについての考えをお聞かせください。

○吉本議長 ただいまの再質問に対する市当局の答弁を求めます。

教育部長。

○秦野教育部長 奥田議員の再質問にお答えをいたします。

2例、外部講師を招いて、いわゆる出前授業の効果についてご説明をいただきました。本市の状況についてお答えをさせていただきたいと思います。

本市では、栄養教諭による食育の授業を各学級の給食の時間に入って、食材や献立、調理の仕方など、クイズ形式で楽しく給食について学んだり、小学校3年生を対象に、特別活動の時間に郷土料理を学ぼうというテーマで、出前事業を行ったりしています。そのほかJA紀の里さんから、いなりずしやコンニャクづくりの出前授業をしていただいております。

さらに、若干食育とは離れますが、平成29年度は、生活環境課の職員が小学校4年生を対象に、ごみ減量の出前授業を実施しました。この出前授業は、子供たちに大変好評であったと聞いています。

また、子供が家に帰って話すことにより、家庭への波及効果も期待できるものがあります。

今後は、食品ロスの観点も含め、ほかの課や関係機関などと連携した取り組みを実施していきたいと考えてございます。

以上です。

○吉本議長 再々質問を許します。

(なし)

○吉本議長 これで、奥田富代子議員の2番目の質問を終わります。

以上で、奥田富代子議員の一般質問を終わります。